

令和2年10月1日

主催者 各位

創造活動室のご利用について

創造活動室をご利用になられる主催者様におかれましては、以下の内容にご留意いただき、新型コロナウイルス感染拡大防止対策へのご理解、ご協力をお願いいたします。

なお、この取扱いは、今後の感染の動向のほか、政府等の対処方針の変更により、適宜改定を行います。

利用日時点の取扱いが適用されますので、あらかじめご了承くださいませようお願いいたします。

◎ **基本的な感染拡大防止対策として、関係者、来場者等に周知、徹底をお願いいたします。**

- ①マスクの常時着用
- ②手指の消毒や手洗い
- ③大声を出さないことの奨励、咳 エチケット
- ④相互の社会的距離の確保
- ⑤厚生労働省の「新型コロナウイルス接触確認アプリ」(COCOA)や「京都市新型コロナウイルスあんしん追跡サービス」の通知サービスの活用
- ⑥37.5℃以上の発熱がある場合や下記の症状等に該当する場合は来館しないでください。
 - ◆咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐などの症状
 - ◆PCR検査で陽性とされた者との濃厚接触がある場合
 - ◆過去2週間以内に入国制限、入国後の観察期間を必要とされる国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある場合等

◎ **利用内容による収容定員について**

- ①大声の発声（大声での歓声、声援、唱和等を含む。）が伴わない利用（演者、来場者、利用者等を含む。）で、感染防止策を総合的に講じたうえで収容定員の100%以内でご利用いただけます。

(例) ピアノ発表会、講演会等 約70～100名
楽器練習等（管楽器無し 最小1m間隔） 約60名
【最大 合計120名】

- ②大きな発声（大声での歓声、声援、唱和等を含む。）を伴う利用（演者、来場者、利用者等を含む。）は、収容定員の50%以内でのご利用となります。

(例) 演者がマスクを外して発声（声楽、独唱等）を含む公演 約60名
ピアノ発表等で来場者が唱和 約40～45名
合唱練習、楽器練習等（管楽器有り 2m間隔） 約30名
【最大 合計60名】

◎ 練習、本番利用の共通事項について

- ①表現上困難な場合を除き、施設内ではマスク着用を徹底してください。
- ②管楽器を演奏する利用については、感染防止の観点から利用者間で十分な距離（最小1 m（できるだけ2 mを目安に））を確保してください。
- ③休憩時間や入退場時には会話抑制を周知するとともに、ロビー等での近距離における対面での会話や滞留を抑制するように利用者等に周知をお願いいたします。
- ④感染防止の観点から演者（利用者）間で十分な距離（最小1 m（できるだけ2 mを目安に））を確保してください。
- ⑤近接した距離での会話は避けてください。
- ⑥仕込み・リハーサル・撤去等において、十分な時間を設定し、密な空間の防止に努めてください。
- ⑦機材や楽器、用具等の取扱者を選定し、不特定者の共有を制限してください。
- ⑧その他、稽古や仕込み・撤去等においても、十分な感染防止策をお願いいたします。
- ⑨利用の際に出たゴミは、お持ち帰りください。
- ⑩当日、施設内外で来場者、利用者、関係者等の検温（検温器は主催者側でご用意ください。）を行い、37.5℃以上の発熱があった方には入場、又は入館をお断りください。

◎ 客席、ステージを設けてのご利用について

- ①客席内ではマスク着用を必須とし、未着用の来場者に対しては配布（主催者側でご用意ください。）や販売等や、個別に注意等を行うことにより着用を徹底してください。
- ②客席内において、大声での発声、歌唱や声援を伴う利用は、席の間隔は十分な距離（最小1 m）空けて椅子を設置してください。
- ③特定の範囲をステージとして使用し、客席を設ける場合は、ステージと客席との間隔は2 m以上空けてください。
- ④来場者と接触するような演出（声援を惹起する、来場者を舞台上げる、ハイタッチをする等）は行わないでください。
- ⑤演者同士の間隔は、十分な距離（最小1 m（できるだけ2 mを目安に）空けてください）。

◎ その他

可能な範囲で利用者、関係者、来場者等の氏名及び緊急連絡先を把握し、作成した名簿を一定期間（概ね1箇月）保持してください。こうした情報は必要に応じて保健所等の公的機関へ提供するため、利用終了後に会館側が主催者から提出を求める場合があります。なお、個人情報の保護の観点から、名簿等の保管には十分な対策を講じ、期間経過後は適切に廃棄してください。

ご不明な点がございましたら、会館職員にお問い合わせください。